

令和6年6月19日

市政記者クラブ様

教育委員会事務局総務部教育環境整備課  
課長 鈴木(972-3280)

### 土壌汚染の報告について

西特別支援学校新校舎建設予定地において、土壌調査を行った結果、市民の健康と安全を確保する環境の保全に関する条例（環境保全条例）に基づき定める基準を超える物質が検出されました。

環境保全条例第57条の2に基づき、令和6年6月19日に環境局へ報告しましたので、下記の通りお知らせします。

### 記

#### 1 調査場所

西区浮野町（詳細な位置については裏面参照）

#### 2 汚染の状況

項目	汚染物質	基準を 超えた濃度	基準に 対する倍率	基準	基準超数 ／調査数
土壌溶出 量調査	砒素及び その化合物	0.013～0.035 mg/L	1.3～ 3.5 倍	0.01mg/L 以下	2/5
	ふっ素及び その化合物	0.81mg/L	1.01 倍	0.8mg/L 以下	1/5

※ 土壌溶出量は土壌に含まれる汚染物質が地下水に溶け出す量を示します。

#### 3 今後の対応

当面の措置や今後の対応について、環境局と十分に協議を行い実施していきます。

## 4 対象地



名古屋都市計画基本図（令和2・3年）を使用

<参考> 基準を超過した物質の毒性について

（砒素及びその化合物）

急性毒性：70～200 mg の摂取により、嘔吐、下痢、脱力感、筋肉けいれん等が現れ、昏睡後死亡する。

\*70 mg は、今回の土壌溶出量の汚染物質濃度（0.035mg/L）では、水 2 kL に含まれる量になります。

慢性毒性：3～6 mg/L の量の長期摂取によっても起こり、一般的には目・鼻・喉等の粘膜炎症に続き、筋肉の弱化、食欲減退が起こる。

発がん性：国際がん研究機関（IARC）は、砒素及び砒素化合物をグループ1（人に対して発がん性がある）に分類している。

（ふっ素及びその化合物）

急性毒性：NaF を 6 mg/日以上摂取し続けていると、ふっ素症となり、体重減少、悪心、嘔吐、便秘等をきたす。SiF<sub>4</sub>では、胃軟化症、神経痛等を起こす。

一般成人が一度に 100 mg 以上摂取すると、腹部の激痛、嘔吐、悪心を起こし、2,500 mg 以上の摂取で中毒死する。

\*100 mg は、今回の土壌溶出量の汚染物質濃度（0.81mg/L）では、水 120L に含まれる量になります。

慢性毒性：ふっ化物で中毒したラットの場合、腎臓における脂肪酸酸化酵素活性が著しく減少し、また、肝臓中の窒素及び脂肪含量が減少することが見い出されている。また、ふっ素中毒では、炭水化物の代謝障害も見られている。

飲料水等からふっ素を長期間過量に摂取した場合、飲料水のふっ素濃度 2ppm 以上で斑状歯を生じ、8 ppm 以上で骨硬化症となる。

発がん性：動物実験で発がん性を示すデータがない。

出典「改訂4版水道水質基準ガイドブック」「化学物質ファクトシート（環境省ウェブサイト）」（下線部分は、名古屋市において挿入しました。）